

東奥日報

2020年(令和2年)6月27日土曜日(16)

小唄流し踊り継承 本年度から八工大授業に

八戸

八戸市の伝統を継承して
いこうと、八戸工業大学(同
市)の感性デザイン学部は
本年度から授業で八戸小唄
流し踊りを取り上げている。
26日、初めての実技講



習が行われ、同学部の1、
3年生25人が日本舞踊泉流
師範の泉彩菜さんから踊り
の手ほどきを受けた。
地域文化論の授業の一
環。八戸小唄流し踊りを知
らない若者が増えているこ
とから、伝統の継承や地元

泉彩菜さん(手前)の踊り
を見ながら八戸小唄流し踊
りの練習をする八戸工業大
学の学生

の魅力の再発見につなげた
いとして本年度から授業カ
リキュラムに取り込んだ。
学生たちは、泉さんに「背
筋を伸ばして視線を遠く
に」「指先に気を配って」
などとアドバイスを受けな
がら、カモメや波の動きを
表現する振り付けを学ん
だ。最初は緊張気味だった
ものの、最後は曲に合わせて
踊れるまでになった。

同学部3年の藤野和海さ
ん(20)「八戸市は「地元
の盆踊り大会などで見たこ
とはあったが、踊るのは初
めて。思い通りに体を動か
せなかつたりして難しいけ
れど楽しい」と話した。

授業の成果は、毎年7月
に市中心街で開かれる催し
「八戸小唄流し踊り」で披

露する予定だったが、新型
コロナウイルスの影響で催
しは中止に。同大の「デビ
ュー」は来年になる予定。
泉さんは「若い男性が加
わると雰囲気違ってかつ
こよくなる。来年は催しで
一緒に踊りたい」と話して
いた。

(加藤桃子)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」